

センダイムシクイ



「焼酎一杯グィーツ」と飲兵衛が発想したとしか思われぬ聞きなしの鳴き方をするので声だけで紛れることはありません。しかしです。「声はすれども、姿は見えぬ」のウグイスの仲間として、すぐそこいらで鳴いてくれるのに姿を捉まえるのに難儀する鳥であります。姿を捉えても地味地味な装いの上に、静止してくれない動きにカメラのレンズで捉えるのがこれまた困難なのであります。これまでにカメラで幾度もトライしましたが、満足な映像はありません。不満ですが、今回の映像です。

ゴールデンウィーク中の澄川の森では一日中どこかでこの鳥の声が聞こえていました。ムシクイの名のつく鳥は亜璃西社「北海道野鳥図鑑」で本種とエゾムシクイ、メボソムシクイの3種が掲載されていますが、姿で区別するのが難しい仲間達です。精度のよい望遠レンズと高級なカメラで撮影した図鑑の写真のような映像で、専門家のみができるとしか思われぬ程度の違いなのです。図鑑に区別の手がかりがこまごまと記載されていますが、ここで紹介しても無駄でしょう。しかし鳴き声ははっきりと種類別なのです。鳥達も区別する必要があるわけで、姿の似ているもの達は声で区別するのはカッコウの仲間と共通です。ほとんどの小鳥達は虫を食べるのに何故この仲間がムシクイなのかはよくわかりません。

巣の形はお椀型で地上の窪みを選ぶようです。澄川のどこかで営巣すると思われるので、これからマークしてみることにいたします。

分布は鳥にしては広くないようです。「国外での繁殖は日本海を取り巻く地域に限られる」と前記図鑑の説明にあります。日露渡り鳥条約、日中渡り鳥協定の指定種であります。



澄川の森林の正式名称はこの春から「札幌市澄川都市環境林」となりました。これまでの環境緑地という名称は芝生が張られた公園のようなイメージが浮かぶのでなじめませんでした。これですっきりしました。面積が 25 ヘクタールとまとまっていますので、札幌市の都市近郊林として代表的な環境といえるので、森林生態調査を意識して森に入っています。この日作業道の陽だまりでクジャクチョウに出会いました。別の日には沢地でルリタテハを見ました。去年の秋には駐車広場でキベリタテハを見ました。その蝶達は昆虫少年であった昔でも捕獲したことのない憧れの蝶達なのです。タテハチョウの仲間は警戒心が強く、飛ぶスピードも速く、飛び方も予測できない変化をするので、捕虫網に捉えることすら難しいのですが、この時期はまだ寒くて体を温める為に陽だまりで日光浴をしてくれます。そんな時でしかこんな写真は撮れません。